

宮城県の調査結果報告

目 次

I	平成20年度全国学力・学習状況調査の概要	P 2
1	調査の目的	
2	調査の対象学年	
3	調査の内容	
4	実施日	
5	参加状況	
6	教科に関する調査結果の全体の概要	
II	各教科の調査の結果	P 4
1	小学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
2	小学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
3	小学校（算数） 主として「知識」に関するA問題	
4	小学校（算数） 主として「活用」に関するB問題	
5	中学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
6	中学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
7	中学校（数学） 主として「知識」に関するA問題	
8	中学校（数学） 主として「活用」に関するB問題	
III	児童生徒質問紙調査結果	P12
IV	学校質問紙調査結果	P14
V	今後の対策等	P16
1	各教科の指導改善のポイント	
2	今後の対応	

I 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年

小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A，算数・数学A)	主として「活用」に関する問題 (国語B，算数・数学B)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
②実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
①学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	①指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日 平成20年4月22日(火)

5 参加状況(公立学校)

(1) 小学校調査

参加学校数(実施率)	児童数
444校(100%)	21,244人

(2) 中学校調査

参加学校数(実施率)	生徒数
220校(100%)	20,208人

6 教科に関する調査結果の全体の概要

- (1) 20年度調査問題は、小・中学校のいずれの教科も19年度と比べやや難しい内容となったため（文部科学省見解）、全国の平均正答率は低い結果となり、本県も同様の傾向となっている。
- (2) 「知識」に関するA問題の平均正答率について
 小学校の国語の平均正答率は64.2%で、全国平均を1.2ポイント下回っている。
 小学校の算数の平均正答率は71.3%で、全国平均を0.9ポイント下回っている。
 中学校の国語の平均正答率は73.8%で、全国平均を0.2ポイント上回っている。
 中学校の数学の平均正答率は61.4%で、全国平均を1.7ポイント下回っている。
「知識」に関するA問題の平均正答率は、いずれの教科においても全国平均とほぼ同程度の結果となっている。
- (3) 「活用」に関するB問題の平均正答率について
 小学校の国語の平均正答率は49.2%で、全国平均を1.3ポイント下回っている。
 小学校の算数の平均正答率は50.4%で、全国平均を1.2ポイント下回っている。
 中学校の国語の平均正答率は61.8%で、全国平均を1.0ポイント上回っている。
 中学校の数学の平均正答率は49.1%で、全国平均を0.1ポイント下回っている。
19年度に課題が見られた「活用」に関するB問題の平均正答率は、中学校の国語が全国平均と比べやや上回ったほか、他の教科も、前年度と比べ全国平均に近づく結果となっている。
- (4) 小学校6年生、中学校3年生のいずれの教科においても、正答数の分布状況については、前年度と同様に、全国とほぼ同じ状況を示しているが、正答数の多い児童生徒数の比率が全国と比べてやや低い状況が見られた。

宮城県と全国の平均正答率一覧表

	「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題					
	問題数	全国平均正答率(%)	宮城県平均正答率(%)	全国平均との比較(%)	問題数	全国平均正答率(%)	宮城県平均正答率(%)	全国平均との比較(%)		
小学校	国語	H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3
		H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0
	算数	H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2
		H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2
中学校	国語	H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0
		H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0
	数学	H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1
		H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2

II 各教科の調査の結果について

1 小学校国語A問題

- 平均正答率が80%以上の場合
「概ね理解している」と判断
- 平均正答率が70%以上80%未満の場合
「更に身に付けさせる必要がある」と判断
- 70%未満の場合
「課題がある」「一部課題が見られる」と判断

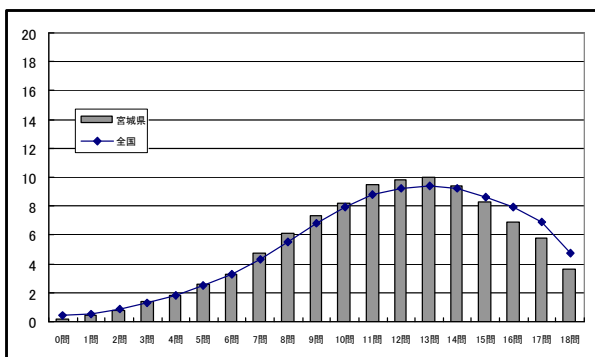
(1) 結果の概要

- 平均正答率が64.2%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。
- 例えば、グラフから分かったことをメモに取ることや、同音異義の漢字を書くことなどに課題がある。

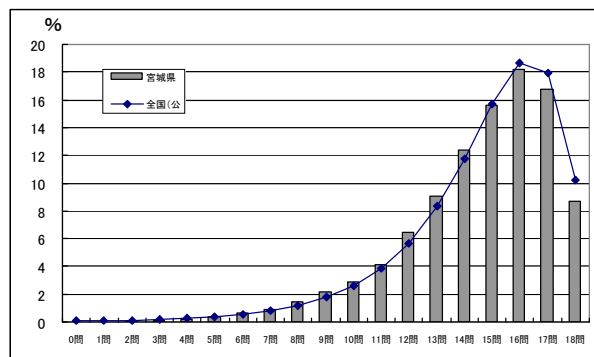
(2) 正答数分布状況

- 19年度と同様に、正答数の多い児童の比率が全国と比べてやや低い状況が見られた。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的に低いため、全体として正答率の低い層が多くなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語事項		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	76.4	54.5	50.7	83.3	44.1	67.0	64.0	86.0	64.2	80.6
全国平均正答率(%)	76.1	56.6	53.3	85.3	44.5	67.3	65.2	86.8	65.4	81.7
全国との比較	+0.3	-2.1	-2.6	-2.0	-0.4	-0.3	-1.2	-0.8	-1.2	-1.1
対象問題数	2	2	4	1	2	3	15	13	23	19
全国平均正答率を上回った問題数	1	1	0	0	1	1	4	4	6	6
全国平均正答率を下回った問題数	1	1	4	1	1	2	11	9	17	13

- 「話すこと・聞くこと」では、「スピーチの組み立ての工夫をとらえる問題」の正答率が79.7%であり、全国平均を1.5ポイント上回った。
- 「書くこと」では、「グラフから分かったことをメモに取る問題」の正答率が43.0%であり、全国平均と比べて4.5ポイント下回った。
- 「読むこと」では、「筆者が伝えたかたこととして適切な内容を選択する問題」の正答率が48.5%であり、全国平均と同じであった。
- 「言語事項」では、「漢字を正しく読む問題」の正答率が90%以上であり、全国平均も上回った。しかし同音異義の漢字を書くことについては、正答率が60%以下であり、全国平均を下回った。

2 小学校国語B問題

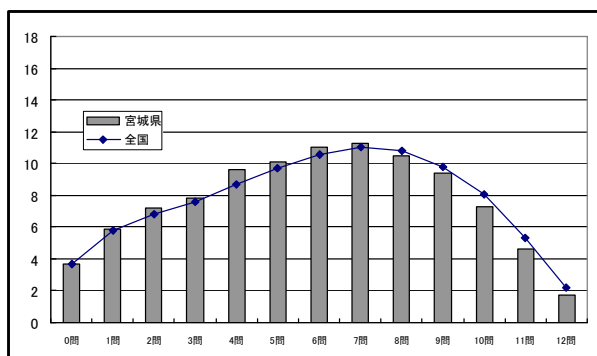
(1) 結果の概要

- 平均正答率が49.2%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。
- 例えば、登場人物の心情や場面についての描写を叙述と関連付けて読むことや、目的に応じて必要な情報を取り出して効果的に書くことに課題がある。

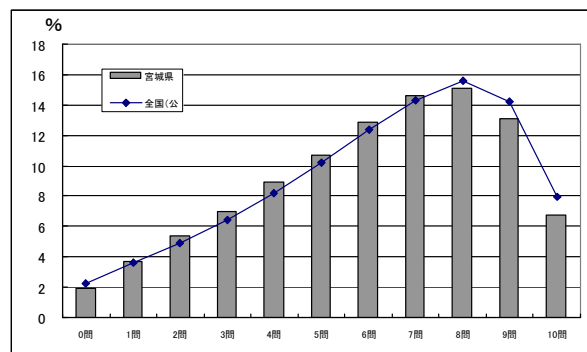
(2) 正答数分布状況

- 19年度と同様に、正答数の多い児童の比率が全国と比べてやや低い状況が見られた。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的に低いため、全体として正答率の低い層が多くなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語事項		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	72.7	67.6	48.0	60.5	46.6	56.5		79.4	49.2	61.0
全国平均正答率(%)	73.0	70.9	49.1	61.7	48.3	57.7		77.0	50.5	62.0
全国との比較	-0.3	-3.3	-1.1	-1.2	-1.7	-1.2		+2.4	-1.3	-1.0
対象問題数	2	2	8	4	8	7	0	1	18	14
全国平均正答率を上回った問題数	1	0	2	1	0	1		0	3	2
全国平均正答率を下回った問題数	1	2	6	3	8	6		1	15	12

- 「話すこと・聞くこと」では、「相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら適切な言葉遣いで聞く問題」の正答率が77.0%であり、全国平均を0.5ポイント上回った。
- 「書くこと」では、「目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書く問題」の正答率が30.7%であり、全国平均を2.1ポイント下回った。また、「目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書く問題（行事の内容）」の正答率が29.6%であり、全国平均を2.8ポイント下回った。
- 「読むこと」では、「登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読む問題」の正答率が43.3%であり全国平均を1.7ポイント下回った。また、「目的に応じて必要な情報を取り出し、整理する問題」の正答率が37.5%であり、全国平均を1.7ポイント下回った。

3 小学校算数A問題

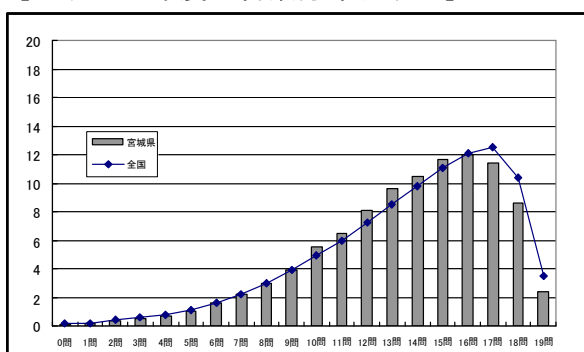
(1) 結果の概要

- 平均正答率が71.3%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。
- 例えば、百分率の意味の理解や、小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係についての知識・理解などに課題がある。

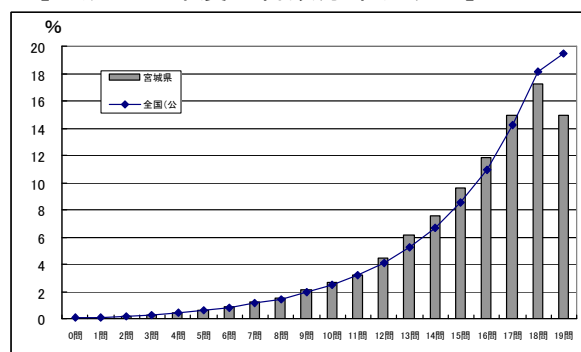
(2) 正答数分布状況

- 19年度と同様に、正答数の多い児童の比率が全国と比べてやや低い状況が見られた。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的にやや低いため、全体として正答率の高い層が少なくなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	数と計算		量と測定		図形		数量関係		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	76.2	79.6	56.1	85.1	71.6	86.3	69.8	74.0	71.3	81.1
全国平均正答率(%)	76.8	81.5	56.2	86.1	72.7	86.1	72.4	75.4	72.2	82.1
全国との比較	-0.6	-1.9	-0.1	-1.0	-1.1	+0.2	-2.6	-1.4	-0.9	-1.0
対象問題数	10	11	3	3	3	2	3	4	19	20
全国平均正答率を上回った問題数	4	3	1	1	2	1	1	1	8	6
全国平均正答率を下回った問題数	6	8	2	2	1	1	2	3	11	14

- 「数と計算」では、繰り下がりのある減法の基本的な計算や十進位取り記数法については概ね理解している。しかし、小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係についての問題は、正答率が全国平均を7.3%下回った。
- 「量と測定」では、平行四辺形の面積を求める問題は概ね理解している。しかし、面積の感覚が身に付いているかどうかの問題では、正答率が全国平均を下回った。
- 「図形」では、円周率の意味や図形の定義や性質の理解については正答率が全国平均を上回った。ひし形や直角三角形の定義や性質を理解することについては、正答率が全国平均を4.8ポイント下回った。
- 「数量関係」では、円グラフを読み取ることは概ね理解している。しかし、百分率の意味の理解については全国平均を5.3ポイント下回った。

4 小学校算数B問題

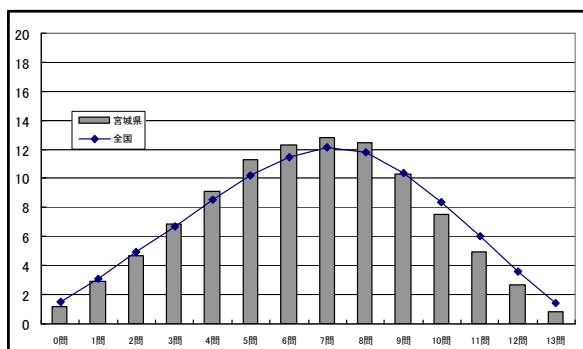
(1) 結果の概要

- 平均正答率が50.4%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。
- 例えば、図形の性質と面積の関係をとらえ数学的に表現することや、グラフや表などの資料から情報を整理・選択したことを基にして数学的に表現することに課題がある。

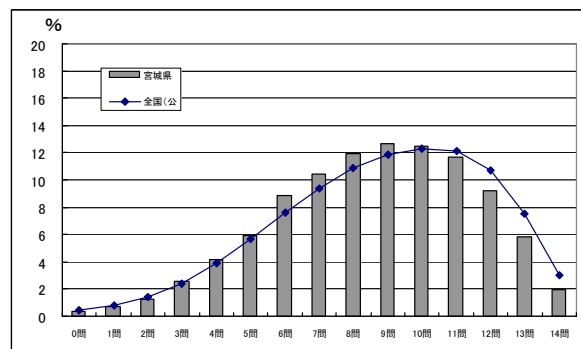
(2) 正答数分布状況

- 19年度と同様に、正答数の多い児童の比率が全国に比べて低い状況である。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的にやや低いため、全体として正答率の高い層が少なくなったことによるものと考えられる。

【平成20年度正答数分布グラフ】



〔平成19年度正答数分布グラフ〕



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	数と計算		量と測定		図形		数量関係		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	64.3	55.0	51.9	55.7	59.9	71.0	43.8	63.6	50.4	61.4
全国平均正答率(%)	65.2	58.9	53.3	58.0	61.2	72.5	44.9	65.5	51.6	63.6
全国との比較	-0.9	-3.9	-1.4	-2.3	-1.3	-1.5	-1.1	-1.9	-1.2	-2.2
対象問題数	3	2	3	3	4	3	7	9	17	17
全国平均正答率を上回った問題数	2	0	0	0	0	1	2	1	4	2
全国平均正答率を下回った問題数	1	2	3	3	4	2	5	8	13	15

- 「数と計算」では、示された表やグラフから情報や規則性を読み取ることは概ね理解している。しかし、情報を整理選択し、筋道を立てて考え、理由を記述する問題は全国平均を3.2ポイント下回った。
- 「量と測定」では、図形の性質と面積の関係をとらえ数学的に表現する問題に課題があり、すべての問題で全国平均を下回った。
- 「図形」では、開け閉めするドアの動きが円の一部であることを見出す問題は概ね理解している。しかし、すべての問題で全国平均を下回った。
- 「数量関係」では、示された考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断する問題や、2つのグラフの対応を比較し、数学的に表現する問題は全国平均を下回った。

5 中学校国語A問題

- 平均正答率が80%以上の場合
「概ね身に付けている」と判断
- 平均正答率が70%以上80%未満の場合
「更に身に付けさせる必要がある」と判断
- 70%未満の場合
「課題がある」「一部課題が見られる」と判断

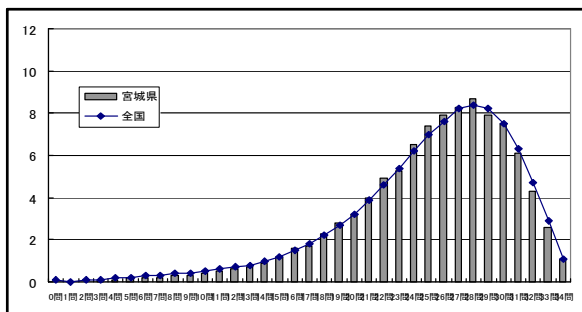
(1) 結果の概要

- 平均正答率が73.8%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。
- 例えば、論理の展開に着目し評価・批評すること、論理の展開の仕方に即して内容を読み取ることなどに課題がある。

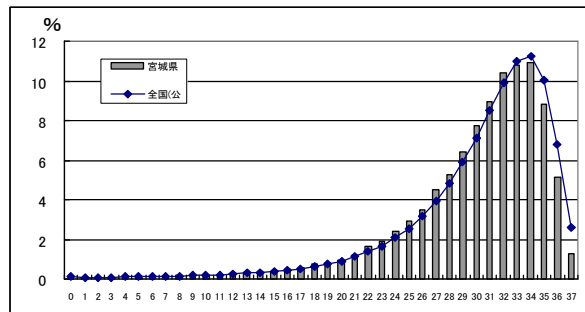
(2) 正答数分布状況

- 正答数の多い生徒の比率が、19年度は全国に比べ低い状況が見られたが、20年度は全国とほぼ同じ状況になっている。
- 分布が19年度とやや異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的にやや低いため、全体として正答率の高い層が少なくなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語事項		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	80.3	90.3	55.8	74.1	71.2	79.9	75.4	78.2	73.8	80.8
全国平均正答率(%)	80.1	90.1	55.2	73.4	71.0	80.6	75.2	80.3	73.6	81.6
全国との比較	+0.2	+0.2	+0.6	+0.7	+0.2	-0.7	+0.2	-2.1	+0.2	-0.8
対象問題数	5	8	2	4	9	7	18	18	34	37
全国平均正答率を上回った問題数	4	3	2	3	6	1	11	5	23	12
全国平均正答率を下回った問題数	1	5	0	1	3	6	7	13	11	25

- 「話すこと・聞くこと」では、「話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて適切な質問をする問題」の正答率が92.1%と高く、全国平均を0.8ポイント上回った。
- 「書くこと」では、「論理の展開の仕方に着目し、評価・批評する問題」の正答率が40.6%と低かったが、全国平均を0.9ポイント上回った。
- 「読むこと」では、「論理の展開に即して、内容を読み取る問題」の正答率が44.6%と低かったが、全国平均を0.8ポイント下回った。
- 「言語事項」では、「漢字を正しく読む問題」の正答率がいずれも90%以上であり、全国平均を上回った。しかし、「辞書を活用して、慣用句の意味を適切に書く問題」の正答率が40.5パーセントと低く、全国平均を0.9ポイント下回った。

6 中学校国語B問題

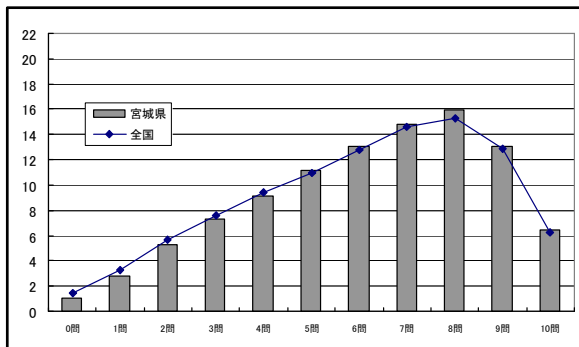
(1) 結果の概要

- 平均正答率が61.8%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に一部課題が見られる。
- 例えば、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと、文章やグラフから必要な情報を正しく読み取ることなどに課題がある。

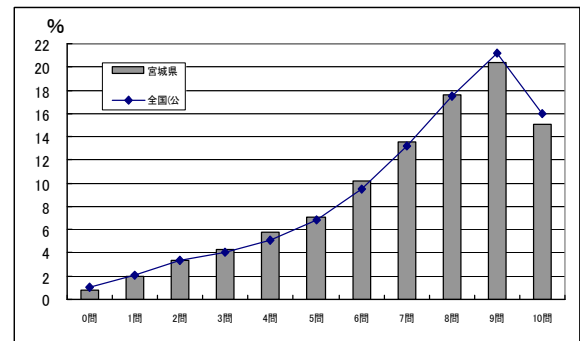
(2) 正答数分布状況

- 正答数の多い生徒の比率が、19年度は全国に比べ低い状況が見られたが、20年度は全国とほぼ同じ状況になっている。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的に低いため、全体として正答率の低い層が多くなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語事項		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)		81.8	48.1	63.4	61.8	69.8	63.1	67.4	61.8	71.0
全国平均正答率(%)		81.3	46.7	64.4	60.8	70.6	60.5	68.5	60.8	72.0
全国との比較		+0.5	+1.4	-1.0	+1.0	-0.8	+2.6	-1.1	+1.0	-1.0
対象問題数		1	4	3	10	9	1	1	15	14
全国平均正答率を上回った問題数		1	4	0	10	1	1	0	15	2
全国平均正答率を下回った問題数		0	0	3	0	8	0	1	0	12

- 「書くこと」では、「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く問題」の正答率が28.5%と低かったが、全国平均を2.0ポイント上回った。
- 「読むこと」では、「登場人物の人間関係を整理する問題」の正答率が80.1%であり、全国平均正答率を1.1ポイント上回った。「文章やグラフから必要な情報を正しく読み取る問題」の正答率が54.7%と低かったが、全国平均を1.1ポイント上回った。
- 「言語事項」の正答率は63.1%であり、全国平均を2.6ポイント上回った。

7 中学校数学A問題

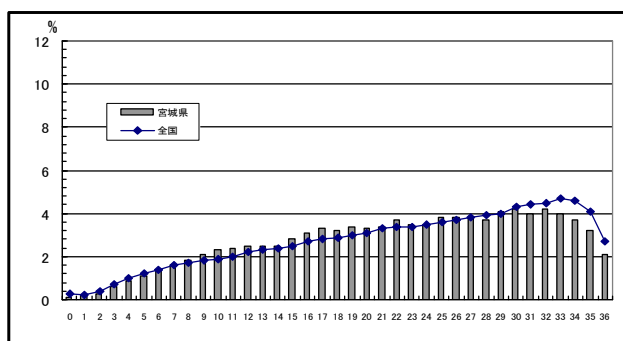
(1) 結果の概要

- 平均正答率が61.4%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。
- 例えば、基本的な図形の性質の理解を問う問題については概ね身に付けているものの、「数と式」の基礎的な計算問題の処理や関数をグラフや式に表すことなどに課題がある

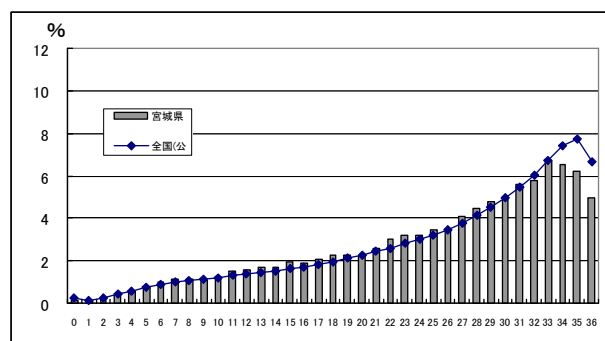
(2) 正答数分布状況

- 19年度と同様に、正答数の多い生徒の比率が全国に比べて低い状況である。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的に低いため、全体として正答率の低い層が多くなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	数と式		図形		数量関係		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	65.4	72.4	61.6	73.7	57.3	64.4	61.4	70.3
全国平均正答率(%)	68.0	74.4	62.7	75.5	58.6	65.9	63.1	71.9
全国との比較	-2.6	-2.0	-1.1	-1.8	-1.3	-1.5	-1.7	-1.6
対象問題数	12	12	12	12	12	12	36	36
全国平均正答率を上回った問題数	0	1	4	2	5	3	9	6
全国平均正答率を下回った問題数	12	11	8	10	7	9	27	30

- 「数と式」では、基礎的な計算問題の処理や式の意味の理解についての問題すべてにおいて、正答率は全国平均を下回った。
- 「図形」では、証明で用いられている平行線の性質についての問題は概ね身に付けている。その他の問題においては、正答率がすべて70%よりも低く、正答率は全国平均を下回った。
- 「数量関係」では、2つの数量関係を読み取る問題については、全国平均を上回った。しかし、確率や関数の表から変化や対応の特徴をとらえ式やグラフに表すことについては、全国平均を5ポイント下回った。

8 中学校数学B問題

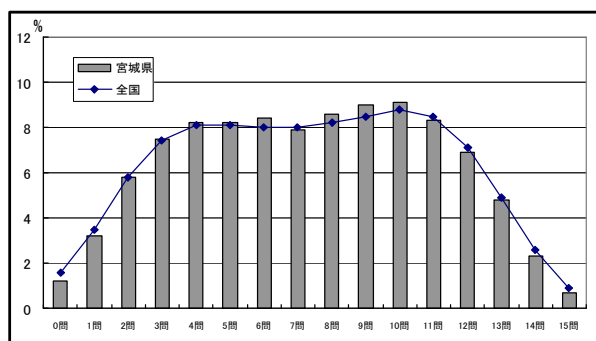
(1) 結果の概要

- 平均正答率が49.1%であり、全国的な傾向と同様、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。
- 例えば、場合の数の求め方についての知識や技能などを活用することや、一次関数の知識・技能などを活用して説明することなどに課題がある。

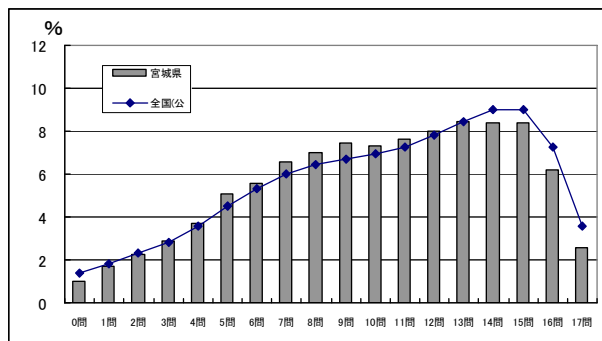
(2) 正答数分布状況

- 19年度は、正答した生徒の比率が全国に比べてかなり低かったが、20年度は正答数の比率については、全国との差異が少なくなってきている。
- 分布が19年度と異なる形状となっているのは、20年度の問題の正答率が全般的に低いため、全体として正答率の低い層が多くなったことによるものと考えられる。

[平成20年度正答数分布グラフ]



[平成19年度正答数分布グラフ]



(3) 領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

領域	数と式		図形		数量関係		合計	
	20	19	20	19	20	19	20	19
宮城県平均正答率(%)	53.8	45.5	59.2	54.0	44.2	67.0	49.1	59.4
全国平均正答率(%)	54.2	48.2	57.6	53.1	44.7	67.9	49.2	60.6
全国との比較	-0.4	-2.7	+1.6	-0.9	-0.5	-0.9	-0.1	-1.2
対象問題数	3	5	3	2	9	10	15	17
全国平均正答率を上回った問題数	1	0	3	2	5	6	9	8
全国平均正答率を下回った問題数	2	5	0	0	4	4	6	9

- 「数と式」では、「82 と、82 の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との和を、式で表す」問題においては、平均正答率が全国平均を0.9ポイント上回った。
- 「図形」では、すべての問題の正答率が70%より低かったが、すべて全国平均を上回った。
- 「数量関係」では、証明に関する問題については、全国平均を上回った。しかし、場合の数の求め方についての知識や技能などを活用する問題では正答率が48.7%であり、また、一次関数の知識・技能などを活用して説明する問題についても50%より低く、全国平均を下回った。

Ⅲ 児童生徒質問紙調査結果

〈主として学力と関連のある項目〉

() 内は全国との比較

1 結果の概要

- 宮城県の小・中学生は、はやね・早起き・朝ごはんや規則正しく生活することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国に比べて肯定的な回答をしているものが多いものの、長時間テレビを見たりテレビゲームをしたりする子どもの割合は、全国平均よりも多い。
- 小・中学生ともに、家庭で予習・復習をしている割合は全国平均より多いが、家庭における学習時間については増加しているものの、全国平均よりも少ない。

2 学習に対する関心・意欲・態度

- 算数・数学の勉強が好きで小・中学生の割合は、昨年度より増加傾向にあり、全国値より高い。
- 国語の勉強が好きで小・中学生の割合は、昨年度より減少しており、全国値より小学生は低いが、中学生は高い。
- 新しく習った漢字を実際の生活の中で使おうとする小・中学生は、昨年度より増加しており、全国値より高い。
- 算数・数学を生活の中で活用しようとする小・中学生の割合は、昨年度より増加しており、全国値より高い。

	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	算数・数学の勉強が好きですか	67.5 (+2.1)	66.4 (+1.4)	53.9 (+1.1)	52.6 (+1.6)
2	国語の勉強が好きですか	55.0 (-1.1)	60.0 (+0.4)	58.5 (+3.3)	59.7 (+2.9)
3	新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	75.8 (+0.3)	73.0 (+0.0)	61.3 (+2.8)	58.7 (+0.6)
4	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.5 (+2.4)	63.5 (+1.2)	38.0 (+3.4)	33.5 (+2.8)

3 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 朝食を毎日食べる小・中学生は、昨年度と同様の値を示し、高い割合であり、全国値よりも高い。
- 学校に行く前に持ち物を確認する小・中学生の割合は増加しているが、全国値より小学生は低く、中学生は高い。
- 家庭でのコミュニケーションについては、小・中学生ともに増加しており、全国値よりも高い傾向にある。

	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか(午後10時より前)	48.4 (+7.0)	49.4 (+7.3)	6.0 (+0.7)	6.3 (+1.0)
2	普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか(午前6時30分より前)	38.0 (+2.5)	37.9 (+3.5)	29.2 (-3.5)	29.2 (-2.5)
3	朝食を毎日食べていますか	96.3 (+0.9)	96.2 (+1.0)	93.6 (+1.7)	93.3 (+1.7)
4	学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	84.9 (-0.4)	85.4 (+0.2)	87.4 (+4.1)	86.0 (+2.9)
5	家の人と朝食を一緒に食べますか	64.7 (+4.0)	64.6 (+3.9)	46.8 (+6.2)	47.5 (+6.9)
6	家の人と学校での出来事について話をしていますか	70.9 (+1.7)	70.0 (+1.6)	60.0 (+2.1)	60.0 (+2.2)

4 学習時間等

- 小・中学生の1日当たりの学習時間は、昨年度より増加傾向にあるものの、全国値より低い。
- 家や図書館で1日当たり30分以上読書する小・中学生は昨年度より減少傾向にあり、全国値よりも小学生は低いが中学生は高い。
- 携帯電話やメールをほぼ毎日している小・中学生の割合は昨年度よりやや増加しているものの、生・中学生ともに全国値よりも低い。
- 携帯電話を持っていない小・中学生の割合は、減少しているものの全国値よりも高い。
- テレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり、聞いたりする小・中学生の割合は、昨年度より増加し、全国値よりも高い。
- 家で予習・復習をしている小・中学生は、昨年度よりも増加し、全国値よりも高い。
- 学習塾で勉強をしている小・中学生は、昨年度より増加しているものの、全国値よりも低い。

	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	学校の授業時間以外に、平日どれくらい勉強しますか（2時間以上、塾を含む）	18.8 (-6.7)	18.3 (-7.2)	29.8 (-5.9)	27.4 (-8.0)
2	土曜日や日曜日など休みの日にどれくらい勉強しますか（3時間以上、塾を含む）	5.8 (-5.6)	5.4 (-5.8)	13.6 (-1.5)	11.8 (-3.1)
3	家や図書館で普段1日にどれくらいの時間、読書しますか（30分以上）	36.6 (-0.2)	38.1 (-1.1)	31.7 (+3.8)	32.1 (+2.4)
4	携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している	8.7 (-2.8)	6.4 (-2.6)	34.3 (-0.9)	32.2 (-0.9)
5	携帯電話を持っていない	72.9 (+4.5)	76.9 (+4.9)	40.2 (+2.1)	43.2 (+2.5)
6	普段1日当たりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか（3時間以上）	51.7 (+5.6)	38.0 (+3.7)	43.0 (+3.4)	35.9 (+2.8)
7	普段1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか（3時間以上）	14.0 (+2.1)	9.8 (+0.9)	10.4 (-0.1)	10.5 (-0.2)
8	家で学校の授業の予習をしていますか。	39.1 (+3.7)	36.6 (+3.7)	41.0 (+12.6)	39.3 (+9.8)
9	家で学校の授業の復習をしていますか。	50.8 (+7.4)	35.8 (-4.3)	48.4 (+8.8)	45.8 (+6.6)
10	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか	41.2 (-7.0)	37.3 (-7.4)	57.8 (-5.8)	52.6 (-6.9)

5 自尊意識・規範意識

- 自尊意識に関する事項（下表の1，2）については、小学生は全国値よりも低いですが、肯定的に回答している小・中学生の割合は、昨年度よりも、増加傾向にある。
- 規範意識に関する事項（下表の3，4，5）については、ほぼ全国と同様の割合であり、肯定的に回答している小・中学生の割合は、昨年度よりも、増加傾向にある。

	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	自分には、よいところがあると思う	71.4 (-2.0)	68.6 (-2.9)	61.8 (+1.0)	59.8 (-0.7)
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.2 (-0.3)	93.2 (+0.1)	92.9 (+1.0)	92.4 (+0.4)
3	学校のきまりを守っていますか	85.7 (-0.6)	85.2 (-1.0)	88.0 (+0.6)	86.0 (+0.3)
4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.0 (+0.3)	94.7 (0)	89.8 (-0.3)	87.8 (-0.1)
5	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.0 (-0.4)	91.4 (-0.5)	90.6 (+0.1)	89.4 (-0.2)

IV 学校質問紙調査結果

〈主として学力と関連のある項目〉

() 内は全国との比較

1 学力向上に向けた取組

- 特に小学校においては、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している割合が全国と比較すると高い。
- 小・中学校ともに長期休業期間を利用した補足的なサポートを実施している割合が全国と比較すると低い。
- 小・中学校ともに「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている割合が高い。全国と比較しても高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか。	58.6 (+16.7)	61.0 (+20.1)	63.6 (+6.4)	61.8 (+6.4)
2	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか。	43.0 (-7.0)	41.2 (-6.6)	70.0 (-7.0)	68.9 (-6.1)
3	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか。	95.0 (+1.8)	93.2 (+1.2)	89.5 (+3.1)	88.9 (+4.3)
4	学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか。	63.5 (-3.8)	56.4 (-3.5)	28.6 (-11.1)	36.0 (-2.3)

2 学力・学習状況の把握

- 小中学校ともに、平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を指導計画等に反映させたり、教育指導の改善に活用したり、広く学校全体で活用している。全国との比較も高い割合である。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか。	94.8 (+6.7)		95.5 (+12.6)	
2	平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか。	90.8 (+13.4)		89.1 (+17.7)	

3 個に応じた指導

- 国語の指導として、習熟の程度に応じて少人数による指導を行っている割合が全国と比較すると低い。算数・数学は、全国と比較すると高いが、小学校は低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	国語の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。	8.2 (-1.1)		5.0 (-2.5)	
2	国語の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか。	6.8 (-0.6)		3.7 (-2.6)	
3	算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。	20.8 (-7.3)		33.6 (+5.1)	
4	算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか。	15.1 (-6.6)		29.1 (+4.8)	

4 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている割合が小学校は高く、中学校は低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。	75.7 (+0.9)	79.3 (+0.9)	54.4 (-3.4)	58.2 (-1.4)
2	博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。	33.1 (-3.4)	31.9 (-6.5)	25.9 (+7.7)	30.7 (+10.0)

5 国語, 算数・数学の指導

- 国語の指導として, 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行っている割合が高い。
- 算数・数学の指導として, 計算問題などの反復練習をする授業を行っている割合が高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	国語の指導として, 書く習慣を付ける授業を行いましたか。	90.1 (+2.7)	82.2 (-1.2)	89.5 (-0.3)	85.8 (-0.9)
2	国語の指導として, 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。	99.3 (+1.4)	96.3 (-0.7)	97.2 (-0.5)	94.7 (-2.3)
3	算数・数学の指導として, 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	63.5 (+2.7)	62.4 (+2.3)	53.7 (+3.9)	46.2 (-2.3)
4	算数・数学の指導として, 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。	98.9 (+0.9)	98.2 (+0.9)	93.6 (-1.5)	92.8 (-0.4)

6 家庭学習・家庭との連携

- 国語, 算数・数学の指導として, 保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている割合や, 学校が家庭での学習習慣付けを図るために学習課題を与えた割合が小・中学校ともに高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	国語の指導として, 保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか。	97.3 (+6.7)		67.3 (+0.7)	
2	算数・数学の指導として, 保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか。	96.3 (+6.4)		71.4 (+4.5)	
3	国語の指導として, 家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか。	99.8 (+1.9)		85.4 (-0.1)	
4	算数・数学の指導として, 家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか。	99.4 (+1.4)		94.1 (+3.7)	

7 開かれた学校

- 小・中学校ともに, 地域の人が自由に授業参観等ができる公開日を設けている割合が全国と比較すると低い。
- 小学校は6学年を, 中学校は3学年を対象とした授業参観を前年度4回以上実施した割合が, 小学校は高く, 中学校は低い。全国との比較も同様である。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	64.0 (-17.2)	59.3 (-20.7)	50.9 (-26.0)	50.2 (-24.4)
2	小学校は6学年を, 中学校は3学年を対象とした授業参観を, 前年度どれくらい実施しましたか。(4回以上)	84.9 (+3.0)	85.9 (+3.2)	37.8 (-4.4)	36.0 (-7.3)

8 教員研修

- 小・中学校では, 模擬授業や事例研究など, 実践的な研修を行っている割合が高く増加傾向にある。全国との比較では, 中学校で割合が高く, 小学校で低い。
- 小・中学校ともに, 講師を招聘するなどの校内研修を行っている割合が全国と比較すると低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		H20	H19	H20	H19
1	模擬授業や事例研究など, 実践的な研修を行っていますか。	90.7 (-2.0)	88.5 (-2.8)	88.2 (+7.0)	84.5 (+6.0)
2	学校でテーマを決め, 講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。	75.0 (-17.1)	70.1 (-20.9)	59.0 (-23.9)	63.6 (-19.5)
3	授業研究を伴う校内研修を前年度, 何回実施しましたか。(9回以上)	50.5 (+4.5)	44.5 (0)	24.0 (-3.0)	22.7 (-2.9)

V 今後の対策等

1 各教科の指導改善のポイント

教科	種類	指導改善のポイント
小学校 国語	A問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて文の構成を正しく理解できるようにしていく。 ○ 図表やグラフなどを活用し、記録文や報告文などの様式や書式を踏まえ、事実に基づいて表現できるようにしていく。 ○ 同音異義の複数の漢字の意味を正しくとらえ、文脈に即した漢字を正しく書くことができるようにしていく。
	B問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記録、報告、説明、感想など多様な様式を用いて書いたり、必要な情報を書き換えたりする言語活動を計画的に指導する。また、字数や構文などの条件に即して書く指導を充実する。
小学校 算数	A問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単に計算技能を高めるだけでなく、下図の関係を数直線上に表すなどの計算の意味を理解させる指導の工夫を充実させる。 ○ 広さについて具体物を取り上げて比較するなどの算数的な活動を取り入れる機会を増やし、量の感覚を身に付けさせる。
	B問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ グラフなどの資料から特徴や傾向を読み取ったり考察したり、説明する活動を取り入れる。 ○ 簡潔・明瞭、類推、帰納など数理的処理のよさの観点から表やグラフを読み取り、言葉や文で表す活動を積極的に取り入れる。
中学校 国語	A問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く活動において、書いた文章を互いに批評的に読んだり、論理の展開の仕方などについて意見交換したりする活動を充実させる。 ○ 叙述に即して読み進めていく授業を展開するとともに、教科書以外の長文に親しむ習慣を付けさせる。 ○ 辞書を積極的に活用させるとともに、漢字や慣用句を具体的な使用場面に即して学習できるようにする。
	B問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図やグラフを含めた多様な素材を学習に用いるとともに、複数の資料を比較しながら読み取り、自分の考えを明確に記述するなどの言語活動を充実させる。
中学校 数学	A問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し計算の指導を行い、その際には、単純に繰り返させるだけではなく、計算の意味の理解の指導をあわせて行う必要がある。 ○ 伴って変わる二つの数量関係の対応表を活用して、グラフや式に表したり、対応表から数量の変化の関係を見出したりするなど、表と式、グラフを関連付けた活動を取り入れる。
	B問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習を取り入れ、問題場面の中の数量関係の把握とともに、樹形図を活用した考え方を身に付けさせる。 ○ 日常の事象と関連付けた課題を提示し、問題解決的な学習を取り入れる。

2 今後の対応

(1) 各方面への周知と各学校の授業改善等の推進

- 調査結果については、各種の教育関係の会議で周知するほか、県教育委員会のホームページに掲載し、広く情報提供していく。
- 各市町村教育委員会及び各学校においては、調査結果と併せて授業改善等の方策を検討するよう、助言していく。
- 今後、検証改善委員会等において、調査結果をさらに詳細に分析し、市町村教育委員会及び各学校に対し、学習指導の充実が図られるような資料を作成するなど、支援していく。

(2) 学力向上関係事業の継続実施

- 今年度から実施している学力向上サポートプログラム事業を中心に、市町村教育委員会と連携を図りながら、教員の教科指導力の向上、児童生徒の学習習慣の形成、教育環境基盤の充実に努め、宮城県の学校教育の最重要課題である児童生徒の学力向上に向けて継続して取り組んでいく。